

# 寺報 みようとく

浄土真宗本願寺派妙徳寺  
(安芸教区志和組)  
発行責任 寺報編集委員会  
東広島市八本松町飯田六〇二  
電話〇八二一四二八〇一四四



あけましておめでとございませう  
いろいろと心配なことが多く、お互い気を  
使い自由にお会いできないのが残念です。  
皆さまのご健勝を念じております。

## 報恩講、護持会報告会



十一月二十五日(水)、報恩講と護持会報告会を開催し

午前中はこども園の子たちが本堂で『こども報恩講』をお勤めしました。前日に有志の皆さまにお掃除とお飾りをしていただいていたお寺の様子に、「これは特別な行事なのだ」ということを感じてくれたようです。普段とは少し違う様子で『らいはいのうた』をお参りし、親鸞さまのお話を聞いてくれました。  
午後一時からの報恩講のお参りには、たくさんの方々がまにお参りをいただきました。扉近くの方のご協力



こどもたちはどうしても密集してしまうので、寒いけれど換気をしっかりして対応しました。

換気をしながらのストーブの暖房の中、正信偈のお参りをしました。マスクのまのお参りは息苦しく感じられ、互いの声聞き取りにくくもどかしい思いもします。しかし、これのおかげでお互いに助けられているのかもしれないと思うと、まずは愚痴よりも感謝が先

### 寺院活動のための 感染症拡大防止の方針

安芸教区志和組13カ寺

**<趣旨>**  
現在、地域の様々な活動・行事が、また本山別院・各寺の法座や行事も自粛あるいは短縮や中止などの判断をとっております。これらは感染症拡大防止のための措置ではありますが、一方で仏縁が遠のいてしまうことが危惧されます。

今後私たちの法座の機会を守り寺院活動を消極的なものにしないために志和組法中で協議、感染防止対策をとりながらより安全な法座を開催することを目的として、あらためて次の5点を志和組法中の方針として申し合わせることにしました。

#### <志和組法中としての方針>

- [1] 手指の消毒設備の設置、マスクの着用依頼、室内の換気、飲食提供に対する配慮等、適切な感染防止対策を講じること
- [2] 3密(密閉・密集・密接)の状態にならないよう互いに配慮を心がけること
- [3] 大声での発声、歌唱とならないように配慮し、又は近接した距離での会話等を控えるように呼び掛けること
- [4] 参拝くださる方には事前の検温をお願いし、37.5℃以上ある場合は参拝を控えていただくようお願いすること
- [5] 相手の痛みを知る仏教徒として、感染者・医療福祉関係者やその家族などを誹謗・中傷・差別になる言動を厳に慎むこと

これらの内容をご留意いただき、ご理解ご協力の上ご安心して参拝いただきますようお願いいたします。今後も状況次第で協議し、新しい方針をお示しいたします。

に立つべきなのではしょうね。少なくともこれからは愚痴は控えることとしましょう。午後三時過ぎ、報恩講が終わってから護持会の報告会が役員さんにより行われ、次の三点を中心に説明がありました。

- ①今年度はまだ途中なので詳細にお伝えすることはできないが、おおむね予算通り運営できていること
- ②決算内容は五月予定の永代経法座終了後の総会で報告すること
- ③今年度中に来年度会費の納入をお願いしたいこと

帳場でお願ひ文書が配布され、その場で会費を納入していただく方もおられました。翌日、お参りいただけなかった皆さまへお願ひ文書を郵送いたしました。  
引き続きご協力よろしくお願ひいたします。

### 私のへウレーカ

皆様方におかれましても、いろんな場面で「わかったぞ」と感じられたことがおありと思います。このような経験が「へウレーカ」の情報として、寺報に掲載して内容が充実できればと考えます。浄土真宗の関係でなくても、日常生活に関することでも構いません。皆様方からの投稿をお待ちします。

今回は総代の土屋さんに寄稿していただきました。

### つづらな瞳に教えられ

みようとくこども園の行事に参加して見ていると、全員が「らいはいのうた」の長いお経を読み上げておりました。理解しているかどうかは別に、子ども心にチャンと届いていることに感動し、指導をしている先生方に敬意を覚えます。こどもたちの明るさと屈託のない笑顔に、いつも見守られている安心を感じておればこそなのだなあとも感じます。

阿弥陀さまのおはたらきは「一子地のごとし」とたえられていきます。悩める人を一人も放っておかない、その人ごとに適した対応を厭わない、そんな理想的なはたらきを準備して下さっています。そのことを親鸞聖人は「親鸞一人がため」といただけ、ことあるごとに私を一人子のよう大切にしてください。阿弥陀さまのはたらきを味わっておられます。それは母親の姿や言葉を思い出すたびに阿弥陀さまのお心が「そうであつたのか」とも感じられるということでもあります。自分が成長してきたなかでどれほど親や友人を心配させてきたか、どれほど多くのお方を悲しませてきたか。そんな私に寄り添って押んでくださっている阿弥陀さま。

阿弥陀さまの前に座ると自然と口からお念仏が出て、どれほど私の支えになっているかと感じています。こども園の子たちのように、阿弥陀さまの前に座りお念仏を唱えることを親しみつつ、お育てい

## 行事予定

新型コロナウイルス感染リスク軽減を目的に法座回数を当面減らすことといたします。(ご注意ください)

大晦日 午後十一時半から  
除夜会 (じよやえ)

元旦 午前十時より一時間半  
修正会 (しゅうしようえ)

一月八日(金) 午前九時、午後一時  
(予定を変更し、夜席を中止とします。)

御正忌法要 (おたんや)  
講師 八本松町篠 本派布教使  
岡本 法治師

三月十二日(金) 午前九時、午後一時  
(予定を変更し、夜席を中止とします。)

春彼岸会 (はるひがんえ)  
講師 呉市川尻 真光寺  
寺西 龍象師

れほど私の支えになっているかと感じています。こども園の子たちのように、阿弥陀さまの前に座りお念仏を唱えることを親しみつつ、お育てい  
ただいているよるこびと感謝の生活を重ねていきたいと思  
(文 土屋隆生)

一語法話

『正信偈の十二光』⑤

普放無量無辺光

：一切群生蒙光照

阿弥陀仏はすべての人を救うためにどのような仏になられたのか？親鸞さまはその働きを『正信偈』で十二の光と示してお教えくださいます。それぞれのよう

なお働きのなにか、親鸞聖人の書かれたご和讃を通して味わう、今回はその五回目です。⑤ 光炎王光 阿弥陀仏の光明は自分の愚痴の闇を照らし、智慧を与えて本当の自分を明らかにして下さる、これが『光』です。そして、私たちの心を真っ黒に染める煩惱の炭を燃や

し心を浄化してくれるので、これを『炎』と言います。ですから、阿弥陀仏の光明は、自分を暗い闇に閉ざしているために、何が正しいか、何が間違っているか分からず迷い続けている私たちに光を与え、自分の本当の姿を明らかにして下さい。また、どれほど仏の教えを聞いてもはねつけて、自分は間違っていないと我

を貫こうとしてしまふ。そんな私の穢れて凝り固まった心を燃やして浄化し、浄らかな心にしてくれる。そういう大いなる働きがあるので『光炎王光』と言われるのです。ご和讃を読んでみましょう。 仏光照曜最第一 光炎王仏となづけたり 三塗の黒闇ひらくなり

大応供を帰命せよ 阿弥陀仏の光明はどんな仏様の光明よりも明るく輝く力が強いので、阿弥陀仏のことを光炎王仏と言われるのです。この光炎王光の働きによって、智慧の目が無いために自分のすがたが分からず、地獄や餓鬼、畜生の境界に堕ちて苦しんでいる人たちに智慧の光を与え、それによって、真つ黒な煩

悩を燃やし浄化させて下される。供養される事に相應しいお徳を持たれた阿弥陀仏に対し、心から頭を下げずにはおれませぬ。(次号へ続く)

編集後記 十二月十二日に編集会議をしました。 飲食での忘年会は自制し、思いのままに皆さまと会えるようであってほしいと新たな年に望みを深く、望年の集いとしました。 お参りで皆さまにお会いできますことを楽しみにしております。

「写経の会」開催予定日 1月 22日(金)午後2時より 2月 26日(金)午後2時より 3月 26日(金)午後2時より 申し込みは 代表 西本さん(428-2466)、または妙徳寺へご連絡下さい。 「妙徳寺仏教壮年会例会」開催予定日 1月 9日(土)午後7時から定例会 2月 13日(土)午後7時より定例会 3月 13日(土)午後7時より定例会 (寺報編集会議) 毎月第2土曜日午後7時開催を原則としています。 「生きていくための仏の教え 仏教基礎講座」 1月 9日(土)午後2時より 2月 13日(土)午後2時より 3月 13日(土)午後2時より 申し込みは 代表 廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へご連絡下さい。 「おみのりサロン」開催予定日 3月 10日(水)午後2時より1時間半(『大乘』講読会と座談会など) 「お茶の会」開催予定日(参加者募集中、ご連絡ください) 現在休止中、再開については電話かホームページでご確認ください。

藝州賀茂郡飯田村 獨歩行

総代の竹本さんに郷土の歴史についてのコラムをお願いしています。 あらためて郷土の歴史を知り、先人に思いを馳せながら読ませていただきます。

其の五 『広島』

元和五年(一六一九)八月八日(旧暦)は浅野長 晟が次男光 晟を伴い紀州から広島へ転封しました。昨年は百年の記念年でした。「広島」という謂れを尋ねると「広い島だったからでしょう」と答える人が多いのに驚きます。江戸時代の古文書「廣嶋獨案内」を紹介します。

【解説文】

『徒然一人灯火をかかげ、見ぬ古へを友にして、反古の端書など取集めて、心に移行くまそこはかなく書き綴るに、あやしや道端求る便り

ともならんものにこそ覚ゆれ、いてや、弥生の素衛川方、花も漸く散り香り伝わる折ふし、隔てぬ友の一人二人尋ね来しまし、互いに物語し、春の名残りも惜しまれて、古しかた品々言葉の花も咲きや、咄し侍りけるに、一人の申し候。』 『毛利氏は中国十余州を治め武威盛んでしが、吉田郡山の山家にては海辺から遠く交通の便が悪いので、天正十七年己丑年(一五八九)、毛利輝元公は吉田よりお出になつて、安南郡・北の庄村の福寫大和守の館にお泊りになり、明星院山・新山・己斐の松原の三ヶ所に登り、城を築く場所を見立てられた。当地には「五ヶ村」と呼ばれる島々が

ありましたが、名には相応しくなく、毛利家先祖の大江廣元の「廣」と福島の「嶋」とをお取合せになり「廣嶋」と御名付けなさる候由、其時、福嶋(元は武田氏の家臣)は武田氏から拝領した阿部藤四郎の脇差を輝元公に謹呈した。一方の輝元公は宇田国宗の御脇差を福嶋に下し置かれた。 天正十八年正月より惣構の土手普請が始まり、二宮太郎左衛門奉行(元就委子)にて町割が出来、同十九年惣堀が出来上がった。城・石垣は出来たが、櫓は工事中でした。 関ヶ原の戦(一六〇〇年)により、はからずも西軍の将・輝元公は、防長二ヶ国へ減封された。その後、福嶋正則(前述の福寫大和守とは別人)が徳川軍忠によって芸備両国を拝領し惣構を建てて完成した。正則も如何なる故か、わからないが、程なくして流罪に仰られた。 『城を築く前は白島辺りまで瀬戸内海が迫っていました

た。 この続きを読みたい方は、我茅屋または、広島市立中央図書館・東広島市中央図書館へ拙書を置いてありますのでお読み下さい。東京在住の第十八代当主浅野長孝公にも謹呈しております。 【解説文とは】 古文書を其儘、現代用語(漢字・平仮名・カナ)に変換した文章のことです。朝廷、將軍などに触れる場合は、「関字」という一文字空けたり、改行したりして非礼無きよう書いています。書き始めは「態 申遣」書き止めには「恐々謹言」、「恐惶謹言」、「如件」などで締め括られ、格調高き文様に触れることができま

す。中世と近世では表現や文字が異なり、また違った趣が味わえます。 【書下し文とは】 解説文を平易な現代用語に変換した文章のことです。 妙徳寺報「藝州賀茂郡獨歩行」は、古文書を解説した上で、歴史を繙き典拠に基づいて紹介しています。現代では馴染みの薄い漢字を取って使っていることがありますが、その場合はルビを打って読み易くなるよう心掛けています。 古文書の中には「偽文書」と呼ばれるものが残念ながら散見されています。内容は史実に反していますが、それを書かれた背景を読み解くことで、更に異なる事実が導かれることがあります。古文書の「嘘」を見抜き、何故必要だったかを知ることが、教科書では学べない歴史の面白さに皆様を誘うよう努めています。「嘘」に目くらまを立てることなく複眼的歴史の醍醐味を堪能下さい。(次号へ続く)

妙徳寺ホームページ http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/ ホームページ内で行事予定を随時更新しています

合同墓・墓地案内 有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。たくさんのお方にご利用いただけます。

志和組テレホン法話「みのりの電話」 433-4989 (しじゅうさんざん、しくはっく) 1月 1日～ 浄蓮寺 沼田典生 1月 11日～ 光源寺 堀 雅美 1月 21日～ 善正寺 武田昭峰 2月 1日～ 報専坊 松島純以 2月 11日～ 天龍寺 天野英昭 2月 21日～ 寿福寺 田中 真 3月 1日～ 八本松 篠岡本法治 3月 11日～ 照栄寺 井口英隆 3月 21日～ 報専坊 松島典子 志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

（編集委員会）

「おみのりサロン」開催予定日 3月 10日(水)午後2時より1時間半(『大乘』講読会と座談会など) 「お茶の会」開催予定日(参加者募集中、ご連絡ください) 現在休止中、再開については電話かホームページでご確認ください。